

令和元年度第3回鹿角市行政評価市民会議

日 時：令和2年3月27日（金）18時30分～19時45分

場 所：鹿角市交流センター 第1研修室

出席委員：8名中7名

出席職員：事務局（以下のとおり）

〔政策企画課〕 政策監、主査、主査

〔総務課〕 課長、政策監、主査

1 開会（進行：事務局）

ただいまから、令和元年度第3回鹿角市行政評価市民会議を開会いたします。

2 会長挨拶

世界中で新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止に努めており、東京都でも外出自粛要請が出ている。鹿角市で、感染者が発生したらどうなるのか、厚生病院で対応が可能なのか、心配している。今日は、計画・実行・評価・改善の評価の部分を市民会議で行うものであり、各委員に忌憚のない意見をお願いします。

3 案件

(1) 第9次行政改革大綱令和元年度実行計画（実績）について（資料1）

説明：総務課 主査

質疑応答

(委員) たくさん業務に取り組んでいて頑張っていると思う。

(委員) 実施中のものも、計画通りに進めてもらいたい。

(委員) 鹿角でもペーパーレス化などの検討を進めていて感動した。

(委員) いろいろなことに取り組んでいると思う。

(委員) 先進地調査だけではなく、鹿角市が先進地となるように進めて欲しいと思う。制度としてできるか分からないが、選挙が来年あるので、スマートフォンで投票できれば若い人も投票しやすいのではないかな。

(事務局) 選挙に関しては、現在入場券を郵送しているが、マイナンバーカードを入場券の代わりにする事例もあり、投票時間等の見直しも含め、取組み方法について検討の余地はある。

(委員) 働き方改革ということもあるので、選挙当日の負担が減ればいいと思う。

(会長) ペーパーレス化は良いことだと思うが、高齢者としては紙で見たいところもあり、良いところと悪いところ両方あると感じた。

(事務局) すべてをペーパーレス化するのではなく、状況を見ながら選択して進めたい。

(会長) 支所機能の集約化も良いことであるが、不便なところも出てきてしまうのではないかな。若い人は車で

動けるが、高齢者は行動範囲が狭く、免許返納をする人も増えているので、遠くに行くことが難しくなる。いろいろなことに取り組んでいるが、その反面、小学校の統合に続いて保育園の統合もなされると、都会から若い人が来て子どもを育てるとき、保育園が近くに無くなってしまい、転入にも影響するのではないかと感じた。

(2) 第6次総合計画後期基本計画実施計画（令和2年度）について（資料2、3、参考資料）

説明：政策企画課 主査

質疑応答

(委員) 防災体制について、地域ぐるみで避難訓練を実施したりすれば良いと思う。

(事務局) 例えば蟹沢自治会が積極的に取り組んでいるが、自主防災組織がメインとなって消防本部や近隣関係者と連携して避難訓練に取り組んでいる。また、自分たちに必要な土のうなどの資機材を点検しながら、災害に備える取組みを進めている。自主防災組織は年々増えてはいるが、組織されていない地域もあるので、取組みを推進したい。

(会長) 鹿角市は災害が少ないが、防災マップはあるのか。崖の近くに家が建っているところもある。

(事務局) 水害に関する洪水ハザードマップのほか、がけ崩れの危険性を示す急傾斜地のマップもある。

(事務局) 水害、土砂災害のエリアを示した防災マップを全戸配付している。ただ、大規模な水害が多発しているため、これまで県では、50年に1度の雨量でシミュレーションしていたが、今後は1000年に1度の大きな規模の災害を見込んで、今年度いっぱい調査することとしている。その調査結果をもとに、新たな洪水ハザードマップを新年度に作成して、市民の皆さんに配付する。

(会長) 火山噴火に関しても、鹿角市での被害についてシミュレーションしているのか。

(事務局) 地域防災計画という計画があるが、その中で火山についても被害を想定して対応を定めている。

(委員) 観光で、ドラゴンアイへの観光アクセス確保のために観光路線バスを増便するということだが、携帯の電波の悪さも解消してもらいたい。移住交流の部分では、関係人口という言葉が良く出てくるが、住んでもらうだけでなく、鹿角に興味をもって足を運んでもらうことも必要だと思う。いい所だけPRするのではなく、その他の事実も合わせてお知らせする必要がある。また、医師になるための奨学資金貸付制度があるが、お金がかかるから医師を諦めることのないようにするための制度だと思うので、周知に努めてもらいたい。

(事務局) ドラゴンアイを観光スポットとして進めていくためには、不便さを解消していかなければならないので、新設するヘリテージツーリズムコーディネーターや地域DMOと連携しながら課題解決に向けて取り組みたい。移住については、関係人口は鹿角に興味を持ってもらうために大事な取組みであるが、鹿角に住むことによって、これまでの生活とどのような違いがあるのかなども重要な情報である。鹿角家の取組みの中で、首都圏の若者と情報交換をする会議を年に複数回実施しているので、鹿角の魅力と合わせて、鹿角の生活の実態も伝えていきたい。奨学資金貸付制度に関連して、市からの寄附講座によって、かづの厚生病院で中学生を対象とした医師体験を実施しているが、鹿角の子どもたちにとって、医師も身近な職業の選択肢の一つとなるような体制をとっていきたい。

- (会長) 八幡平の鹿角側のトイレが使用できなくなっているが、観光地として力を入れるならトイレは重要である。また、八幡平頂上の鹿角側の駐車場は有料なので、観光客の多くは、八幡平市側の無料駐車場に停めている。できれば有料駐車場を無料にしてもらいたい。
- (事務局) 八幡平国立公園エリアの方向性については、鹿角だけでなく岩手県側とも連携し、これから基本構想を検討していく。
- (会長) 医師の問題に関して、昔は自治医科大学に入学して地元に戻ってくる医師が多かったように思うが、最近は鹿角から自治医科大学に入る人はいないのか。
- (事務局) そのような情報はつかんでいないが、いろいろな進学先で鹿角市の支援を利用して学び、いずれ鹿角で医療の道を進んでもらえるよう、地域医療推進員とも逐一情報交換しながら、つながりをしっかり持って取り組んでいる。
- (事務局) 自治医科大学卒業後は、基本的に自治体が経営する公立病院勤務となることが多いようである。J A秋田厚生連が経営する厚生病院が医師を招聘するとなると、秋田県との調整も必要となるので、自治医科大学と直接連携するのは、単独では難しい面がある。厚生病院に関しては、岩手医科大学、秋田大学からの医師派遣が多いので、今後も確実に派遣してもらえるよう、つながりを強くしていかなければならない。
- (委員) 公共交通機関に不便を感じている中で、路線バスの回数券の購入助成の年齢要件を撤廃しても、運転免許証を返納する気にはならないのではないのか。あまり効果がないと思う。
- (事務局) 年齢要件を撤廃した背景としては、鹿角市でも高齢者の免許返納者が少しずつ増えている実態があり、回数券購入助成の年齢要件を定める必要性が乏しくなっているため、まずは現在走っている路線について、誰でも利用しやすい環境をつくることを目的としたものである。移動手段の確保については、路線バスは乗る人がいなければ便数が縮小してしまう傾向があるので、デマンド型などの手法を確保しながら両輪で進めなければならないと考えている。
- (会長) 私の地域に住む一人暮らしの人で、花輪や大館にバスを利用して出かけている人がいる。便数は少ないが、病院にも行きやすいので便利に思っている人もいると思う。
- (委員) バス停が近ければいいが、遠いので不便である。
- (事務局) 鹿角では地域乗合交通や予約型の運行に取り組んでいるが、今後のICT技術によって利便性が向上することも考えられる。利用しなければ公共交通機関の維持ができないので、今後も利便性の向上にむけて取り組みたい。
- (会長) 八幡平のデマンド交通はどこを走っているのか。
- (事務局) 林崎、小割沢、夏井、大久保、荒町、八幡平市民センターを經由して花輪駅まで走るルートと、長内、桃枝という集落と花輪を結ぶルートの2本を運行している。いずれも、バスが通っていない空白地帯をルートにしている。
- (委員) 製造業に関して、求人情報の発信など力を入れて取り組んでもらいたい。農業では、スマート農業導入の実証に取り組むということであるが、経費もかかると思うので、負担が大きくなるようなものを構築してもらいたい。末広地区に力を入れるのは理解できるが、今ある集落営農法人でも人手不足などの経営の問題もあるし、生産物の掘り起こしも含めて末広地区以外にも目を向けてもらいたい。農福連携という部分が出てきていないが、福祉関係とコラボして人手不足を解消できればいいと思う。

- (事務局) SNSを活用した求人情報発信については、これまで鹿角でやりたくてもやれていなかった部分であり、企業が望む人材や職業についての情報を発信し、それに興味をもった学生などと個別に具体的なやり取りができる仕組みになっている。一括採用ではなく、本当に必要な人材を確保できる取組みが実現する。スマート農業の実証では、コストの課題も含めて調査する。農業の人材不足については、地元の若者にも農業に目を向けてもらう啓発も必要であるし、首都圏で農業に興味を持つ人もいると認識しているので鹿角家の取組みとも連携していきたい。農福連携については、各担当とも必要性について協議しているが、クリアしなければならない課題も多いので、もう少し課題整理をしていかなければならない。
- (事務局) スマート農業については、令和2年度はトマトときゅうりで進めるが、導入には当然コストがかかるので、まずは市で実証し、農家で自走できるかを検証する取組みとしている。末広地区については、農地集積が大きく進んだ一つの先進事例として、他の法人の活動にもつなげたいという意向で記載している。農福連携は、市と事業者が直接的なやり取りをしているわけではないが、実際に活動している福祉関連事業所もある。
- (委員) 移住に関する取組みがいろいろある中で、子育てママ応援ツアーとしてシングルマザーを対象としているのが、私が知る限りでは初めてだと思う。鹿角では保育園の待機児童がいないし、子どもが過ごせる場所もあるので、子育てがしやすいところだと感じている。ただ、移住してくるとなると、仕事が必要になってくるが、市内の職場が子育てやシングルマザーに対して、いい待遇ができるかと言われると、今の段階では肯定できないと思うので、いろいろな職場でいろいろな働き方を示すことができると思う。シングルマザーを優遇しろということではなく、その人それぞれに合った働き方があるので、いろいろな働き方を提案できると思う。ドラゴンアイの話があったが、個人的には有料駐車場は有料のままでいいと思う。遠方から来た人は、観光スポットで感動したものに対して無料を求めない、むしろお金を落としたい側だと思う。お金を払ってもらえるところはちゃんと払ってもらった方が良い。ただ、有料にするのであれば、お金を払う価値がなければならぬと思う。外国の観光客からは、日本はトイレが少ないと言われているようなので、トイレは増やした方が良いと思う。
- (事務局) シングルマザーに対する仕事の支援であるが、ツアーは、地元の企業・団体とも協議して進めており、働き方まで対応していけるよう、オール鹿角で移住後のサポートをしていけるような意思統一も含めて検討していきたい。八幡平の有料駐車場に関しては、海外でみると、世界遺産や有名な観光地では、対価として日本よりも高い価格設定がなされている。普通の公園に入るだけでも料金がかかり、それを利益ではなく、自然や遺跡など保存に活用している。そのような価格設定があるからこそ、観光客は価値のあるものとして捉えるので、海外のインバウンドに対する考え方についても、ヘリテージツーリズムコーディネーターや世界遺産級文化を活用した取組みの中で検討していきたい。
- (会長) お金を払ってもいいと思えるような取組みとしてもらいたい。また、地域に子どもがいないので、子どもを預ける場所がなくて困っている人がいるなら、高齢者と子どもを結びつけるような仕組みができないかなと思う。農業などでも、1時間くらいは頑張れる高齢者はたくさんいると思う。高齢者を活用しないと産業自体が成り立たなくなるのではないかな。いい取組みがたくさん実施されているので、このままいけば鹿角市は素晴らしくなると思う。
- (委員) 先ほど、中学生の医師体験の話があったが、岩手医科大の学長と当時の院長と話す機会があり、岩手

医科大のオープンキャンパスに鹿角市の生徒が参加していろいろ体験する取組みはとてもいい取組みであり、ぜひ続けていただきたいと言われたので、続けてもらいたい。

4 その他

(事務局) 今回は行政改革の評価と来年度の実施計画を案件としたが、実施計画への意見については、来年度の取組みに生かしていきたい。行政改革は来年度の進め方について検討中であるが、行政評価の市民委員として来年度も引き続きご意見をいただきたい。

5 閉会 (19:45終了)